マクヴェイ 山田久仁子
ハーバード燕京図書館ライブラリアン

安井順一郎
文化庁地域文化創生本部事務局長

服部しほり
日本画家

広瀬浩二郎
文化人類学者

自己問い直す 美と知

服部しほり「faced face」

服部 私は絵を「創る」工程として、自身の目を絵えてきた自負があります。物を捉え、判別する、あるいは、憂である、悲むむ、守るなどの観点から目を駆使することが、「自分の得意とする能力」と幼少時から信じてきました。日本画の大前提は写生、物を観察して自分ごとで作品が出来上がるのです。

視覚だけにとらわれていることに疑いを抱くことがなかったのです。今回、広瀬さんとの出会いから多くの気付きをいただき、学ぶことができました。

思えば、私も含め家族もみんな健康で、いつも友人に恵まれ、大学院進学までさせてもらい、人生で何かが大きく欠けたことがありませんでした。いまはそれが作家としての在り方に大きなコンプレックスになっています。

例えば私の作品『faced face』は視覚にテーマを置いています。

新型コロナウイルスの感染拡大で、文化が「不要不急」と捉えられがちな現状に違和感を持っています。2001年、仲間と「視覚障害文化を育てる会」を設立した時もそうでした。21世紀になり、視覚障害は「生きるために、どうすればいいのか」から「どのように生きるのか」が課題になりました。視覚障害独自の生き方のキーワードとして、「育てる会」は「文化」を用いたわけです。

具体的には、食・色・触・職。食は万国共通の基本的コミュニケーション手段、色は文護用ツールとして、触は視覚障害者が優性

生活と歩む京の厚み 安井さん

広瀬 僕と同じ盲学校の卒業生で、先輩です。芸術学の分野で博士号を取得され、現在は博物館や美術館のアクセシビリティーを研究されています。

マクヴェイ 素晴らしいですね。彼女をぜひから応援したいです。

私は大学卒業後に勤めた近代文学資料の収集・研究を行う日本近代文学館（東京都）で本の原形保存や修復に興味を持ちました。館の事業に感巧の初版本の復刻出版があり、本の装幀や創意工夫に満ちた装丁など「本の世界」の奥深さに触れました。以来、和紙への深い愛情と敬意を抱いています。

1987年に渡米して、ボストンの職人錦成の専門学校で2年間伝統的製本技術を学びました。偶然その時期に開設された現代日本情報を提供する図書室に従事しとことから、現在の仕事につながり、ハーバード大での図書館勤務が今年で31年目となりました。

パンデミックの影響もあり、電子媒体での情報提供が主流になろうとしている。一方で物としての書籍も、研究対象として再認識されてきています。

広瀬さんとの出会いで少し紹介します。1829年開校のパーキンス盲学校がボストン郊外にあり、重度障害の教育家レンンケラーも学んでいます。

また、毎年3月には米国のアジア研究者の集まりであるアジア研究学会（ASS）の年次総会が開かれます。

今年は、若い研究者による東アジアの視覚障害を主題にした研究発表があり、江戸時代の医学書の視覚障害の記述の分析、映画「座頭市」の発表などがありました。

米国では最近、BLM（Black Lives Matter）をはじめ人種やLGBTQなど、マイノリティーによる権利の差別への異議申し立ての動きが広がっています。視覚障害者も含めた障害者の問題も、その文脈で語られているように思います。

安井 文化庁では2022年度中に京都新転を目指し4年前に京都市東山区に地域文化創生本部を立ち上げ、移転の先行組織として業務を行っています。

昨年12月には障害者の文化芸術活動の振興として京都国立近代美術館などで障害者芸術のプログラム「コネクト」を開催し、広瀬さんにはパネルディスカッションに登壇いただきました。

人間は、「心」を持った生物なんです。で、物理的な存在だけでなく、心の充足に文化・芸術は欠かせません。文化庁の調査でも、昨年からのコロナ禍の文化芸術に触れる機会が減少した方々のほとんどが、生活の楽しみ、幸せが減ったと感じています。人々の生活の質や幸せに直結するのが文化芸術であり、その活動を文化庁としっかりと支えていきたいと思います。

京都は文化庁がある意味についてです。文化に「創・使・伝」の要素があるとすれば、長い歴史の厚みを持つ京都は、連綿に伝えられてきた文化の集積地であることが理由の一つです。伝えられてきた文化としては、豊富な文化財が

「翻案」生み出す萌芽 広瀬さん

広瀬 目を銀えに鎖した服部さんの言葉、変てるは、僕もそうです。花を全身で楽しむなら「花見」ではなく「花愛」がしっくりきます。

服部さんの新聞「視覚障害者がどのように絵を見るか」についてです。京都市立芸術大の辰巳明久教授が、「ビジュアルデザインを学ぶ年生に対し、視覚障害者にもわかる、触る絵画」の制作を課題にしました。視覚障害教育、福祉などの文脈で「触る絵画」が作られるケースはありましたが、それらは目の見えない人に絵画を教えてあげるという彩形が強かったように思います。

芸大生たちの「触る絵画」は「味違います。視覚的に捉えられた絵画を触覚的に再解釈・再創造する、単なる触覚から触覚への置き換えではなく、新たな芸術的「翻案」を生み出す、そんな萌芽が芸大生の中にあるように感じられます。「触る絵画」は、今秋開催の民博の特別展に展示される予定です。

物としての書籍に光 マクヴェイさん

マクヴェイさんへ、一世代前のドナルド・キーン、ハーヴァードの名民の研究には、たしかに「風呂敷さえの穴も目ひらえ」があり、日本人研究者は、大躍進を遂げ、ハーバード大学の中の日本、東アジアのアカデミズムでは、日本研究はマイノリティーなどではのプラスに働きうるあるべきです。

安井さんの本話は説得力があり、頷きながらうかがいました。

ロボット研究の分野の組み合わせ、幅広い視野に基づく日本史像の構築を、世界の中の日本、東アジアの文脈で、日本研究はマイノリティーです。しかし面もあるべきです。

服部 「離れて見えるもの」、「離れてはいるけれど、つながっている」、「つながっているけれど、離れている」、「つながっているけれど、離れている」、「つながっているけれど、離れ